



平成28年6月10日
海上保安庁

西之島の火山活動の状況（6月7日観測）

当庁航空機による西之島の火山活動の観測を実施したところ、静穏な状態が継続していますが、突発的な噴火活動等の可能性があるため警戒を呼びかけています。

6月7日に羽田航空基地所属航空機（MA722 みずなぎ）により西之島の火山活動の観測を実施しました。

1. 火山活動の状況

火口から青紫色を帯びた火山ガスの放出を認めました（図1）。また、西之島の地表では、新たな溶岩流の流出は認められませんでした。

熱計測装置の撮影結果では、火口縁や火砕丘周辺の溶岩原には依然として地表温度の高い領域が点在しており、前回（5月20日）の観測結果とほとんど変化はありませんでした。

西之島の北西側から東側の海岸沿いには、青白色の変色水域が幅約100m～200mで分布していました（図2）。

同乗した東京工業大学火山流体研究センターの野上健治教授からは、

「火口内と火口縁並びに南側外斜面に噴気活動が認められる。火口内から青紫色を帯びた火山ガスが放出されており、噴気温度の高いところがあると考えられるが、先月の観測に比べてその量は減っており噴気活動は縮小していると考えられる。変色水域の面積も一段と減少しており、静穏な状態が継続しているものと考えられる。」

とのコメントが得られました。

今回の西之島の火山活動は静穏な状態でしたが、突発的な噴火活動等の可能性は否定できず、その際の噴火による影響が及ぶおそれがあることから、西之島及び周辺海域（火口から半径0.9海里（=約1.5km）の範囲）においては、付近航行船舶へ引き

続き航行警報により警戒を呼びかけています。

2. 新たに形成された陸地の状況

前回調査（5月20日）の当庁航空機による観測と比較して、砂浜の増加による若干の面積の増加が認められました（図3及び図4）。

○6月7日時点での西之島の形状（暫定値）

- ・東西：約1,900m（5月20日時点 東西：1,900m）
- ・南北：約1,900m（5月20日時点 南北：1,900m）
- ・面積：約2.68平方km

東京ドームの約57倍、噴火前の西之島の約12倍

（参考）5月20日時点の面積：約2.66平方km、東京ドームの約57倍

○西之島の面積の比較

基準とする事物	面積	各事物に対する西之島 (6/7時点)の広さ
	(km ²)	
東京ドーム	0.0468	約57倍
バチカン市国 [世界で最も小さい国]	0.44	約6.0倍
仁徳天皇陵	0.479	約5.6倍
東京ディズニーリゾート	1.003	約2.7倍
大阪城公園	1.06	約2.5倍
南鳥島 [日本最東端]	1.51	約1.8倍
モナコ公国 [世界で2番目に小さい国]	2.02	約1.3倍
西之島 (6/7)	2.68	
(5/20)	2.66	



図1 火口から放出される火山ガスの様子（6月7日撮影）



図2 西之島北西側から東側海岸線の変色水域の状況（6月7日撮影）

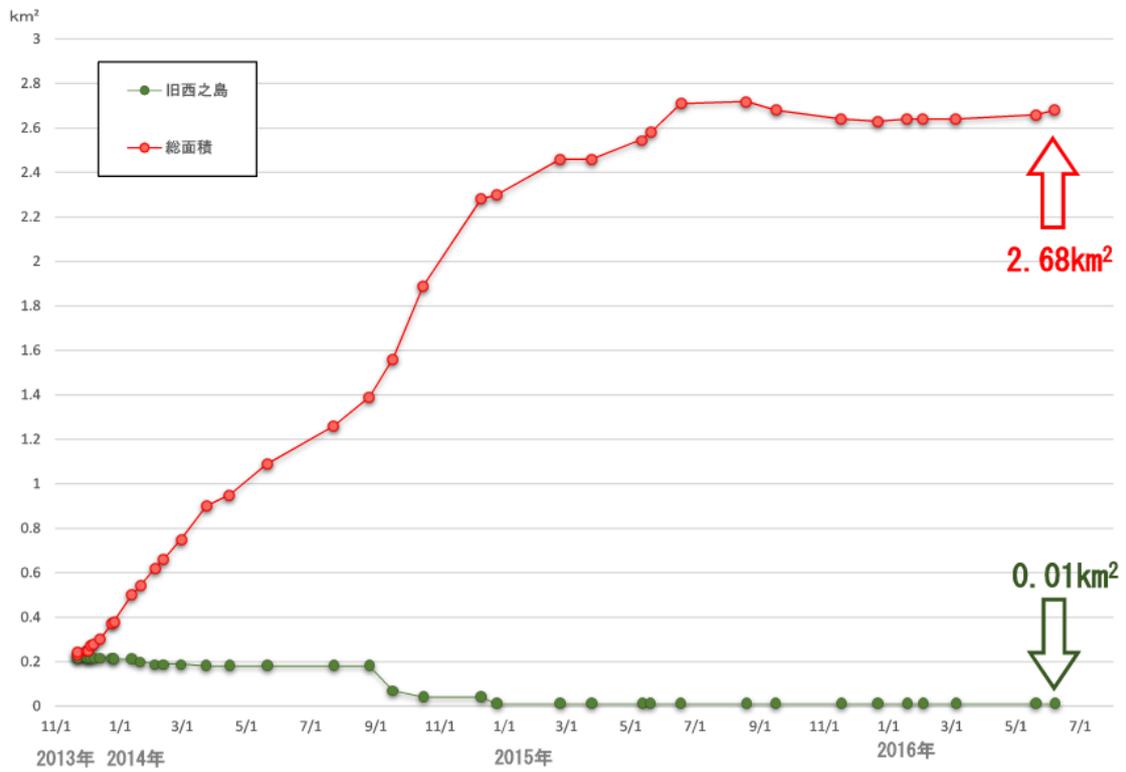


図3 西之島の面積変化グラフ

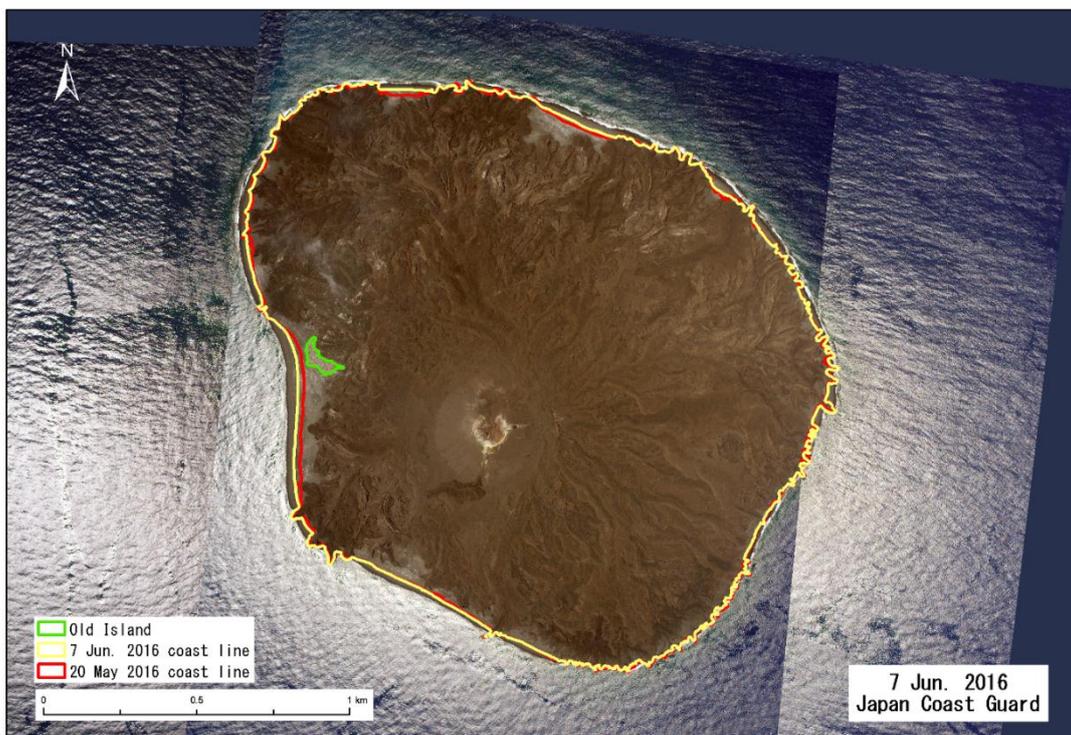


図4 西之島空中写真（6月7日撮影）